海外レポート	**シンガポール**

「働き方の変化で増えるコワーキングスペース」

碇　知子

ある日突然出勤が禁止される―コロナによる異常事態で増えた在宅勤務。コロナは収束し、行動制限はなくなりましたが、以前のように毎日出勤する、というケースは減っているようで、多くの企業が取り入れているのはハイブリッド型勤務スタイル。週の数日はオフィス、それ以外はリモートワークという働き方です。とはいっても、自宅において静かで快適な就業環境を確保できる人は多くありません。そこで需要が高まっているのがコワーキングスペースです。

＜ネットワーキングがメリットの一つ＞

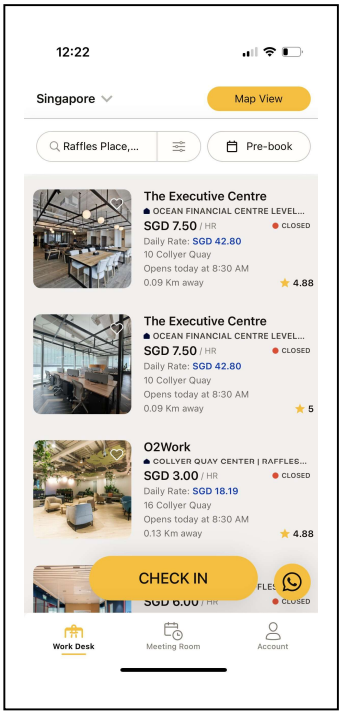
オフィスを賃貸するとなると、２年の賃貸契約、入居時と退去時の改装、電気もインターネットも自前で契約、と手間もお金もかかりますが、コワーキングスペースなら基本的なオフィス設備は整っているので、すぐに仕事ができます。初期投資が少なく、入居してすぐに仕事ができるオプションとしては、サービスオフィスもありますが、こちらは基本的には個室で、同じ会社の人としか顔を合わせないことが多いです。コワーキングスペースでは、広いカフェのような場所でさまざまな人が一緒に仕事をしており、オペレーターも、利用者間のコミュニケーションを活発にするためのイベントを頻繁に企画しているので、ネットワーキングも可能です。JR 東日本が運営する One & Co というコワーキングスペースもあり、多くの日本企業が利用しています。

＜どこでも使えるアプリも登場＞

従来、シンガポールでは、コワーキングスペースを使うためには１カ所あるいは１社のオペレーターと契約して、毎月の契約金額を払うことが主流でした。安いとは言え、月に数回しか利用しなくても数百ドルかかります。半日、あるいは１日単位で借りることもできますが、どこにどのような施設があり、コストがどれくらいなのか、１社１社調べるのは大変です。そこに現れた画期的なサービスが、複数のオペレーターの施設を一覧でき、チェックイン、チェックアウト、支払いまでできるアプリです。

その一つが Deskimo（デスキモ）です。Deskimo のアプリには、2023 年９月 12 日現在、シンガポール国内 67 カ所がリストアップされていて、ほかにジャカルタ、香港、UAE でも利用が可能です。分刻みで課金されるので、「もうすぐ終わるけどあと３分で１時間になっちゃう」と焦る必要もありません。ビジネス街各地、住宅地など様々な場所の物件が掲載されているので、その日のスケジュールに合わせて、一番近いコワーキングスペースを利用することが可能です。

Switch（スイッチ）というアプリはシンガポールで 49 カ所、オーストラリア、香港で利用可能です。同社のウェブサイトによると、日本でのサービス展開も準備中です。



【Deskimo アプリ画面】

カフェやホテルのレストランなど、食事時間帯以外は利用されていなかった場所も、インターネット環境と電源さえ整備すれば、コワーキングスペースを提供できますし、アプリに掲載すればマーケティング費用もかからないので、異業種からの参入もあるようです。

【カフェがコワーキングスペースに】

アプリをダウンロードすれば誰でも使えるコワーキングスペース、出張の時に利用してみてはいかがでしょう。コワーキングスペースに会社の登記住所を置くことも可能ですので、新規進出の際にも利用できます。

コワーキングスペース：「異なる職業や仕事を持った利用者たちが同じ場所で机や椅子、ネットワーク設備などをシェアしながら、仕事をする場所」を指すことが多い。